

## 第4回（平成21年度）IODP部会・執行部会 議事録（案）

日時：2009年10月2日（金） 14：30～17：30

場所：海洋研究開発機構東京事務所 大会議室

### 出席者（敬称略）

執行部：山崎俊嗣（産業技術総合研究所） 芦 寿一郎（東京大学） 安間 了（筑波大学）  
池原 実（高知大学海洋コア総合研究センター） 沖野郷子（東京大学）  
坂本竜彦（海洋研究開発機構） 末次大輔（海洋研究開発機構）  
林 広樹（島根大学） 松本 剛（琉球大学） 森田澄人（産業技術総合研究所）  
山本啓之（海洋研究開発機構） 山本正伸（北海道大学）

文部科学省海洋地球課：柴田晋吾 酒井祐介

海洋研究開発機構：竹縄佳二 倉本真一 阿波根直一 北見恵美理

事務局：加賀谷一茶 梅津慶太 三木真理

### 欠席者（敬称略）

執行部：高澤栄一（新潟大学） 平野直人（東北大学）

### 議事次第

#### 1. SAS パネル・国内委員会関連

- (1) #14 SPC 会議報告〔山崎部会長〕……………[資料 1-1, 1-2]
- (2) SAS パネル委員選出について……………[資料 2]
- (3) IODP-MI 末廣代表との懇談会報告

#### 2. IODP 科学計画更新

- (1) INVEST 報告〔山崎部会長〕……………[資料 3-1～3-4]
- (2) Science Plan Drafting メンバーの推薦について〔山崎部会長〕…[資料 4]

#### 3. 乗船研究関連

(1) Exp.323 Bering Sea Paleooceanography 乗船研究報告〔池原委員，坂本委員（Exp. 323 乗船研究者）〕

#### 4. 学術交流関連

- (1) KJOD シンポジウム／日韓プロポーザル WS 準備状況〔松本委員〕……………[資料

#### 5、当日追加資料 1]

- (2) 連合大会のセッション提案の募集について〔沖野委員〕……………[資料 6- 当日追加資料 1]
- (3) J-DESC コアスクール開催企画案〔池原委員（開催担当責任者）
- ・コア解析基礎コース……………[資料 7-1]

・コア同位体分析コース ……………[資料 7-2]

## 5. 研究支援関係

- (1) IODP 乗船研究者研究費支援の準備状況 [山崎部会長, 倉本オブザーバー 他]
- (2) IODP 成果公表助成について (下半期: ~10/19 申請〆切) [事務局] …[資料 8]
- (3) 会員提案型活動経費について (下半期: 10 月募集開始) [事務局] ……[資料 9]

## 6. 広報活動関係

- (1) JOIDES Resolution 号横浜公開報告 [事務局 他]
- (2) IODP キャンペーン in 東北 準備状況 [事務局, 安間部会長補佐]

## 7. その他

・次回執行部会開催日程

### 配布資料

- 資料 1-1 #14 SPC 会議報告書 (090825-27 : Kiel, Germany)
- 資料 1-2 #14 SPC Draft Executive Summary
- 資料 2 SAS Panel ローテーション
- 資料 3-1 INVEST Program
- 資料 3-2 INVEST Session & Chair List
- 資料 3-3 J-DESC White Paper \_Contents
- 資料 3-4 J-DESC White Paper \_Implementation
- 資料 4 Science Plan Drafting メンバー推薦者リスト (INVEST 国内運営委員会バージョン)
- 資料 5 KJOD シンポジウム/日韓プロポーザル WS 旅費支援要領
- ~~資料 6 連合大会セッション提案募集について~~ → 当日追加資料 2
- 資料 7-1 J-DESC コアスクール: コア解析基礎コース 企画案
- 資料 7-2 " : コア同位体分析コース 企画案
- 資料 8 IODP 成果公表助成\_第 1 回助成実績
- 資料 9 平成 21 年度会員提案型活動経費 募集要領

参考資料 1 2009 年度 J-DESC 経費執行状況 (10/1 現在)

参考資料 2 J-DESC/IODP/ICDP 関連スケジュール (10/1 現在)

当日追加資料 1 The 4<sup>th</sup> KJOD/IODP Symposium and Okinawa Trough Workshop

当日追加資料 2 2010 連合大会セッション提案に関するメモ (10/2 沖野)

## 議事録 (案)

はじめに MEXT 堀氏後任として着任された柴田氏より自己紹介がなされた。

### 1. SAS パネル・国内委員会関連

(1) #14 SPC 会議報告 [山崎部会長] ……………[資料 1-1, 1-2]

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 会議報告はすでにメールで回覧済みであるので、概ねご理解頂けるであろうが、以下を補足する。
- ・ JR 航海スケジュール (資料 1-2 の p3 参照) で決定済みは Superfast+CRISP A までであり、Mid-Atlantic Microbio は後で改めて SPC にて承認を行う。
- ・ FY11 中旬の Superfast + CRISP A は二つの目的を一航海で行なうということ。CRISP A に 50% の時間を保障し、Superfast の掘削孔のコンディションによってはさらに CRISP A が増える。Co-chief ノミネーションは両方に対して行うようになっている。
- ・ ちきゅう航海 (資料 1-2 の p4 参照) では、黒潮の状態によって Case 1 ~ 4 が想定されている (Case 1 が最優先)。

CDEX より下記補足説明がなされた。

- ・ Case 1 は Observatory および、ライザー掘削となる。NT3-01 は、プレート境界まで掘るサイトだが、黒潮真っ只中の可能性があり、ライザー掘削のオペレーションが安全にできないと判断されれば Case 2 もライザー掘削なので、Case 3 に移行する。その場合は、20inch ケーシングまではライザーレスのオペレーションなので可能。全くできなければ、Observatory と沖縄、あるいは Observatory とマリアナとなる。黒潮のシミュレーションは 3 ヶ月前しかできない。6 ヶ月前に準備を開始し 3 ヶ月前にどちらに行くかを判断することになる。そのため準備は Observatory、ライザー掘削、沖縄、マリアナという形で、サイエンスパーティは全て準備する。Co-chief ノミネーションも全部行ってもらおう。

以上、スケジュールリングについて。

山崎部会長より SPC の方針について以下のように説明があった。

- ・ SPC にプロポーザルが溜まっている現状においては、柔軟性をもった掘削航海によって 2013 年までに成果をださなくてはいけないという議論により、削れるところは削って、プロポーザルの本質的部分のみ実行し、できるだけ多くのプロポーザルを実行できるようめざすことを検討している。現在 SPC あるいは OTF にあるプロポーザルについては IODP-MI からコンタクトし、さらに本質的な部分はどこかという検討をプロポーネントにして頂く。そのような方針でできるだけスケジュールリングを行う。
- ・ EDP の Vice Chair 2 人問題について。SPC は Terms of reference に反するため Vice Chair を 2 人は認めない方針。EDP でのコンセンサス文書が SPC まで上がったが結果として否認された。

以下、SPC 会議でのその他の報告。

- ・ Jim Mori 氏が議長任期満了。笠原順三氏が次回からの Vice Chair として今回初めて参加された。

(2) SAS パネル委員選出について ……………[資料 2]

標記の件について山崎部会長と執行部で討議された。

SPC : Jim Mori 氏の後任のノミネーションが必要。

- ・ J-DESC の意見として、執行部会から人を送るべきと書かれたこともあり、また、欧米も送ってきている。すぐ公募であるが、山崎部会長/SPC 委員は自らの立候補を表明、推薦を要請した。

SASEC：議長候補含め 2 人候補必要。

- ・ 国際経験豊かで英語力ある方、IODP の中だけで候補を考えないほうが良い。SASEC は委員会としてのレベルが高いが負担は SPC より軽く、年 2 回の会議。
- ・ 複数名の候補者の名前が上がった。他に思いついたら山崎部会長にメール連絡を行なうこととする。

SSEP：早急ではないが必要。比較的簡単に推薦ありそうだが、念頭におくこと。

次に、SAS パネルの代理委員の補充方法について、山崎部会長より以下の表明があった。

- ・ 予め代理委員としてのプールを用意しそこから充てていくという方法をやっているところもあると聞いているが、代理委員として任命してもその方々に日程留保してもらうのは日本の状況では難しいであろう。であれば、そういう固定した方法ではなく、絶えず可能性ある方をプールしておき、そこから任命する方法はどうか。
- ・ 今年 3 月の SPC では 4～5 名の代理委員が必要となったが、選考に手間取り、ぎりぎりまで確定できなかったという反省がある。
- ・ 委員にはとにかく出席不能の場合は一刻も早く連絡してもらい、早急に代理をあたるようにするという認識してもらおう。次回会議の日程はかなり前に決定しており、委員側でも大学入試等の外せない日程は把握しているはずなので、出席の可否は早期に判るはずである。
- ・ 任期満了の場合も次の会議までにというのではなく、満了前に後任を決定するよう、執行部/事務局も今より早く行動するようにする。この点は MI から指摘されている。SPC は会議と会議の間にも連絡やメール会議もあるためシームレスな体制が必要である。
- ・ 事務局にて SASEC、SSEP の公募を順次開始する。SSEP は分野バランスを考慮する。候補リストは常に事務局で用意しておくようにする。

### (3) IODP-MI 末廣代表との懇談会報告（山崎）

標記について山崎部会長より報告があった。

- ・ 9 月初旬、末廣代表一時帰国のおりに、代表、MEXT、山崎部会長で懇談会をもった。
- ・ 10 月 1 日から IODP-MI は海洋大と契約、東京オフィス入居スペースの改装に着手する。
- ・ 1 月に末廣代表のみが東京に着任、3 月に札幌から完全移転、アメリカからの異動はなし。
- ・ MI でアメリカには特命事項として 1 名残留、Greg Myer 氏 (Riserless mud drilling 担当) である。
- ・ 東京移転の最大のメリットは、億単位の経費節減とのこと。
- ・ 今後の運営の考え方として末廣代表いわく、これまで IODP-MI は独立してあまり他と関わらない感じであったが、すべての機関と密に情報交換していきたい。J-DESC、CDEX とも近くなる。メリットを活かしてほしい。
- ・ 1 月着任後に執行部会で IODP-MI を訪ねて勉強したいと思う。末廣代表に総会へ出席頂くことも可能かと思う。
- ・ 懇談会の席にて、その他の話題として CDEX から J-DESC への要望があった：SAS の機能見直しは 2013 待たずに来るであろう、そのとき J-DESC としての意見を出してほしい。→ この件について、山崎部会長は SASEC、SPC レベルの話は要職を務めた方の意見を聴取する必要があると考える。

## 2. IODP 科学計画更新

### (1) INVEST 報告〔山崎部会長〕……………[資料 3-1~3-4]

標記の件について山崎部会長より報告があった。

- ・ J-DESC White Paper は INVEST 直前であったが広い関係者の努力により結構充実したものに仕上がった。資料 3-3,3-4 はその目次と Strategy 抜粋。Strategy は安間委員の rewrite によりかなり強く格調高いものとなった。White Paper は必ずしも求められていたものではないが結果としてアメリカ、ヨーロッパ、そして日本から提出された。これによって、日本の存在も、強くアピールできたと思う。White Paper は INVEST のホームページからも閲覧可能である。まず作成、協議したことに非常に意義がある。
- ・ プログラムは、キートンレクチャーとブレイクアウトセッションからなる。ブレイクアウトセッションでサイエンス部分が ST1~3 と ST4~5 の 2 グループに分かれる。1~3 グループが初日から 2 日目途中、4~5 グループが 2 日目途中から 3 日目午前で行なわれた。その後 6 の Implementation のセッションがあった。
- ・ とにかく時間がなかった。朝 8:15 に始まり 18 時過ぎまで非常に時間に追われたが、ST1~3 合同のセッションもあり、そこでは全体のプレゼンでいくつも含まれてきたし、結果として、ちきゅうを使ったサイエンスのアピールはできた。Nature に Wish list という記事が出ている。Implementation のセッションでもそれぞれのプラットフォームに応じたプロポーザルが必要であろうという認識がされていたと思う。印象としてもサイエンスの Wish list を作ったという感じである。主催者は 250 人程度を想定していたらしいが、560 名という予想以上の参加者数であった。また、日本からはアメリカに次ぐ参加者数で、100 名強であった。うち 50 名程度が J-DESC 関連支援。参加者数ということでも存在感を示せたと思う。
- ・ この INVEST の結果に基づいてこれから Science Plan が作られていくわけだが、それを書く人を選ぶのが非常に重要である。

### (2) Science Plan Drafting メンバーの推薦について〔山崎部会長〕……………[資料 4]

標記について山崎部会長より説明があった。

- ・ ドラフティングメンバーの推薦は誰でも可能である。世界で 100 名程度、決定は SASEC が行う。
- ・ 推薦の締め切りは 10/11。
- ・ 資料 4 にあるように、川幡氏からすでに IODP-MI へ 8 名の推薦を行っている。
- ・ 推薦は多くてもいいので、他にも追加があればしてほしい。
- ・ ジオハザード関係国際コミュニティで推薦の議論がなされているが、まだ推薦者の詳細は不明。(山田氏に照会中)
- ・ 世界でトータル 12 名、うち日本枠 4 程度、うち INVEST SC から稲垣氏内定、実質残り 3 枠となる。これがファーストドラフトのためのメンバーである。日本としては、「ちきゅう」を使ったものを書いてくれる方が望まれる。また、分野によっては柱にならなくてもどこかに書かれていないと将来的に困難になるという意味では、J-DESC としては、選ばれた方々をサポートしたい。サポーターの件は、人選後に議論する。

- ・ まず、資料4に誰を追加するかアイデアを募りたい。キャリアバランスを考えて人選されると思われるので、ある程度の年齢層を含んで推薦すべきだし、国際的な方であることも望まれる。

以上、検討により川幡氏からの推薦者はすでによく考えられているとの合意があった。実際の決定後には、どうサポートするかを考えることとする。

### 3. 乗船研究関連

#### (1) Exp.323 Bering Sea Paleooceanography 乗船研究報告 [池原委員, 坂本委員 (Exp. 323 乗船研究者)]

先に山崎部会長より、「ちきゅう」航海について1件報告があった。

- ・ ちきゅう出航直前に乗船研究者が1名健康上の理由で乗船不可能となり、日本枠が1つ空いてしまった。検討はしたが研究者での急な補充が不可能となり、CDEXと相談のうえトレイニーとして急遽募集を行い、現在乗船中である。本来はJ-DESCで公募すべきところであったが急を要すうえ週末にかかり、そこへ週末開催の学会で志望者が見つかったこともあり、差迫った乗船スケジュールの事情から即決した次第である。

坂本委員から、ベーリング航海についての報告がなされた。

- ・ JRは7/4 ヴィクトリア(カナダ)入港、7/10出港、9/4 横浜寄港 計58日間、うちトランジット9日含む。天候に恵まれた。合計7サイト、うち3サイトが750m、RCDは使用せず、APCとXCBだけを行なった。APC 440mで最深記録であった。
- ・ サイエンスパーティはCo-chief 高橋孝三氏/Christina Ravelo氏で全体としては非常によいチームであった。将来の共同研究計画もできた。
- ・ 船上のデータベースや機器などにいまだ問題があり、課題は残している。計測部会でかなり議論して作ったプロトコルが実行されていなかった。

以上に加え、池原委員から報告がなされた。

- ・ コアは横浜から高知に陸送されており、12月に高知に集まってサンプリングパーティを行なう。

### 4. 学術交流関連

#### (1) KJOD シンポジウム/日韓プロポーザル WS 準備状況 [松本委員]

.....[資料5、および当日追加資料1]

標記について、松本委員より現状報告があった。

- ・ 第4回 KJOD/IODP シンポジウムは10/29-31である。参加者のうち何名かはJ-DESCで旅費支援することになっており、事務局が申請フォームを用意した。ここで承認を頂けばWeb公開し、1週間で締め切って選考する。申請書で重視するのは4.の申請者の役割の記述である。
- ・ 日程(当日追加資料1)は9/15のメ切後のものであるが、まだ未確定な部分がある。メインは30日で、午前中が沖縄トラフセッション、午後は古海洋/環境関係、他のIODP関係になっている。日本からは合計8件、韓国から10件のエントリー、主に東アジア関係である。その後ホテルに移動して懇親会がある。

- ・ ワークショップは沖縄トラフ掘削がターゲット、昨年の日本地質学会秋田大会の続きである。先方が31日午前中を指定してきたが、半日では時間が足りないので1日取りたいと日本側は希望している。29日午後を使うのはどうかとの提案がきているが、現在まだ確定連絡はない。29日午後では参加できないメンバーもあり、対応を検討中である。
  - ・ 今後 agenda 等提案して、詳細をつめていく。
  - ・ 現在は日本側関係者に情報を流しているが、今後執行部に逐一進捗情報を報告する。
- 以上について、J-DESC で参加支援者の公募をすることが合意された。人数 3~6 名、報告書については、SAS パネル出張のフォーム共通利用で、J-DESC に公開する。本日（10/5）募集開始し、12 日で締め切り、13 日承認手続き開始、16 日午後採択通知する。

(2) 連合大会のセッション提案の募集について〔沖野委員〕……[当日追加資料 2]  
 標記について沖野委員より説明が行われた。

- ・ 概要： 大会日程は 5/23-28、セッションチェア切は 10/30。
- ・ 昨年度は「地球掘削科学」を「地質学セッション」という分類で登録していて、レギュラー化した。オーラル 3 コマ、ポスター 7 件。前執行部で担当だった井上氏と話してすすめ、執行部からコンビーナを選びチェアもお願いした。
- ・ 昨年度からの申し送りとして、①陸上掘削からもコンビーナを出すこと。②ポスター比を増やすこと（大会事務局よりの要請）がある。
- ・ 今大会からの変更点として、レギュラーとスペシャルの区分がなくなり、サイエンスセッションと一般向けの区分が出来た。また、セッション区分が増えたので、選択が必要である。
- ・ 成果報告会を昨年度は行っていない。この大会を成果報告会として位置づけ、終了した航海については義務として報告してもらおう。

以下が討議された。

- ・ 分野横断型セッションとして登録する。
- ・ 成果報告未提出の航海についてはコンビーナが首席に強く要請すること。→ Exp.312 までは報告終了している。Exp.314~16 は 2007 年のもので既に多方面で発表されている。よって、Exp.320 以降は Co-chief、該当者がいないものについては代表格の人を指名する。
- ・ INVEST 報告を 1 つくらい誰か。→ INVEST 旅費支援の学生には後日発表してもらおうことになっているので、何らかのポスター発表を。
- ・ 乗船研究者にお誘いメールをだす。
- ・ コンビーナについて。→ Co-chief の方々、山崎氏、西氏、芦氏が候補として上がった。また、佐藤部会長に陸上のコンビーナを推薦して頂く方向。
- ・ 以上のほか、学生などが読める日本語の特集記事のプランを検討したい。笠原氏の地学雑誌など参考に。

————— 休憩 —————

(3) J-DESC コアスクール開催企画案〔池原委員（開催担当責任者）  
 標記の件について、池原委員より企画説明がなされた。

[資料 7-1、7-2]

- ・ コア解析基礎コース [資料 7-1]は、3/8~11 (4日間)、内容は例年どおり。
- ・ コア同位体分析コース [資料 7-2]は、3/12~14 (3日間)、2プログラムを設定。
- ・ J-DESC からの予算は、各コース 25 万である。参加費として一律 2,000 円、参加者より徴収する。また基礎コースは高知大学からも支援がある。各コースとも収支予算案を資料に示す。
- ・ 今後、J-DESC ホームページで掲示するとともに、サーキュラーを回して 12 月~1 月に募集開始、2 月上旬に募集〆切りという日程である。

下記のような検討がなされた。

- ・ 両コースとも参加費を 2,000 円徴収することになっているが、参加費からの支出予定のうち用紙代等の消耗品は J-DESC 予算で支出可能である。茶菓代はそのつど非公式に集金することにして、参加費を無くしてはどうかと J-DESC より提案があったが、多少参加費を取ってもよいだらうとの結論に至った。
  - ・ 参加者の保険代は、従来より J-DESC で支出している。一人数百円程度である。
  - ・ 日程が大学入試等とぶつからないかどうかは、念のため再確認する。
  - ・ 将来的に韓国の人を受け入れるという話があるが、今のところ、今年度は日本語のみで行なう。
- 以上により、企画は了承された。

学術交流関連のその他の報告として、日独研究者交流の計画について、山崎部会長より現状報告がなされた。

- ・ 昨年、川幡前部会長のときに手がけた話である。大筋で合意をしており、12 月に先方へ文書を発信したところで止まっている。ドイツ側カウンターパートのヨハン・エルバッハ氏に問合せたが、日本側カウンターパートの北里氏に返事が来ないので、困っている。
- ・ 今年、高知コアセンターへひとり派遣したい旨、独・ブレーメンから JAMSTEC に照会がきているという話があるが、詳細不明である。
- ・ 再度、北里氏と状況確認をとる。

## 5. 研究支援関係

(1) IODP 乗船研究者研究費支援の準備状況 [山崎部会長、倉本オブザーバー 他]

標記について JAMSTEC 倉本氏、竹縄氏より説明がなされた。

- ・ 総論は承認済み。
- ・ 今年度および来年度対象者程度の人数で予算見積もりを算出し、来年のサポートまでカバーできるよう詳細検討中である。内容的には承認されており、現在、事務的に JAMSTEC の経理上の確認作業をしている。そこが承認されれば委託研究という形で支援を行なうことになる。
- ・ 額は少ないが J-DESC を通しての応募とし、然るべき評価を行ったのちの委託研究という形で契約する。年度最後には報告書提出を義務付ける。
- ・ 個人単位の支援と Exp.単位の支援を考えている。
- ・ Exp.単位の支援はまだ手法を検討中であるが、Exp.は目的が纏まっているので、一本で契約すれば事務処理の煩雑さが減少すると考える。契約を研究グループ代表者と交わし、資金の振込みをせず、購入リストに基づいて JAMSTEC が発注して届け、JAMSTEC で経理処理する方法などが考えられ



る。間接経費が発生せず小額予算を有効活用できるというメリットがある。

以上について、下記の所見があった。

- ・ 申請されたものを査定して可否決定するのが基本である。
- ・ 申請書を書くのも経験になる。申請書のひどいものは指導するという趣旨があっても良い。

## (2) IODP 成果公表助成について（下半期：～10/19 申請〆切） [事務局] …[資料 8]

標記について事務局より現状報告がなされた。

- ・ 現在募集中である。資料 8 は前回の実績である。
- ・ 成果公表助成の今年度審査委員についてメールを送っているが、正式に決定していない状態である。安間委員には了承頂いたが、あと 2 名程度お願いしたい。→ 山本（啓）委員と坂本委員に了承頂いた。
- ・ 審査員は、申請内容から文書が審査対象に該当するかどうかをチェックする。例えばワークショップレポートなどは対象外。In press は対象となる。
- ・ 詳細を J-DESC のサイトに掲載して募集している。応募者の年数制限はない。現在のところ 2 名応募。10/19 〆切である。
- ・ 申請論文 1 本につき 1 万円、乗船者なら+1 万円、筆頭著者なら+5000 円、上限 2 万 5 千円である。応募資格は乗船者でなくても、IODP のデータ利用、サンプルリクエストによる研究でも構わない。

以下の所見があった。

- ・ IODP のものを使えば、よい成果が出ずジャーナルが書けない場合も、データレポートとして書くことが義務付けられている。書いたものはその時の EPM などに必ず報告する。そうするとジャーナルはすべて EOI でリンクされてプロシーディングスに載ってカウントされる。乗船者はその義務にサインしている。それを果さないで、IO が管理しているブラックリストにのる。
- ・ 乗船者またはショアベースの研究者を対象と見なしているようだが、データは 1 年後には公表され、誰でも使える。助成のあることを知って殺到したらどうするか。
  - \* 事務局補足： 募集要項は「第 301 次研究航海以降の研究航海で取得された IODP のデータおよび試料に基づき執筆し、出版されたまたは出版予定のもの。」「タイトル、キーワード、あるいは Acknowledgement などに IODP の航海で取得されたデータ・試料に基づき執筆されたことが明記されている必要がある」となっている。
- ・ データを利用して書いて頂いたことに対して出すことは正当である。

## (3) 会員提案型活動経費について（下半期：10 月募集開始） [事務局] ……[資料 9]

標記について、事務局から報告がなされた。

- ・ 資料 9 が募集要項、このように 10 月から募集を開始した。
- ・ 前期は 2 件の応募があった。今回は後期である。

以下の指示および所見があった。

- ・ 年間総額の記述は勘違いされるので、削除すべきである。

## 6. 広報活動関係

#### (1) JOIDES Resolution 号横浜公開報告〔事務局 他〕

標記について、事務局より報告がなされた。

- ・ 9/5～6 シャツキー航海前に横浜大黒ふ頭に寄港した JR の公開を行なった。
- ・ 9/5 一般公開、参加者約 50 名。参加者はまず JAMSTEC 横浜研究所に集合、山崎部会長が IODP についてのレク、その後バスで埠頭へ移動、ベーリング航海から帰還直後の研究者の協力を得て船内見学を行なった。
- ・ 9/6 研究者対象、参加者約 30 名、同様のスケジュールであった。
- ・ JR の寄港は 4 年ぶり、かつ新装後はじめてで、知見ある研究者の興味も高かった。

#### (2) IODP キャンペーン in 東北 準備状況〔事務局，安間部会長補佐〕

標記、および今後のキャンペーンについて、事務局より現状報告がなされた。

- ・ 東北大にて 10/9～11 の 3 日間行なわれる。
- ・ 10/9 は学生向け講演、10/10～11 は「片平まつり」という大学のオープンキャンパスのようなイベントがあり、そこに IODP のブース展示を行ない、11 日は一般向けの講演を開催する。10/9 は安間委員に「IODPに参加するには」というタイトルで講演頂く。また巽氏（石渡氏リクエストによる）や、マリンワークからマリンテクニシャンの話もお願いしている。10/9,11 の両日とも CDEX 阿波根氏にちきゅうの話を、また 10/11 は石渡氏にもご講演頂く予定である。
- ・ SPC 委員の掛川氏から協力の申出があり、東北大 GCOE と共催となっている。
- ・ 東北大でキャンペーン 2 箇所目である。11 月愛媛を予定しており現在調整中。年間 4 箇所の予定であり、あと 1 箇所開催地を決めねばならない。

キャンペーン候補地として、静岡大の提案があり、J-DESC IODP 部会として事務局から打診することで合意された。

#### 7. その他

○ CDEX 倉本氏より、年度末に成果報告会を開催したいとの旨、提案があった。山崎部会長および委員からの質疑等を逐次受けながら説明されたことを、下記にまとめる。

- ・ 年度末に成果報告会を予定している。ひとつは、Exp.301 以降のサイエンティフィックな報告会。もうひとつは、一般を対象にした海洋掘削のアウトリーチである。後者について、IYPE 最終年度総括イベントを 3 月末に開催するので、同会場で抱き合わせの形にしたい。総括イベントの会場は秋葉原駅前、3/27-28、その間に半日または数時間で一般向けを、うまくいけば相乗効果になり、メディア効果もある。同意あれば講師選定などご相談しながら進めたい。専門的なほうは、執行部会でプログラム等を検討して頂きたい。
- ・ 専門向けのターゲットは、幕張の連合大会参加者、掘削に関係しない大気海洋分野、学生など、サイエンスの議論できる人を対象とする。
- ・ 素案はマネジメント側でつくるので、判断してもらい、人選もお願いすることになる。
- ・ 専門向けの会場を別に設定する場合も、年内は困難である。

- ・ IYPE イベントの目的はアウトリーチ。対象は高校生以上の一般である。イベントには IODP に関わらない研究機関が多数関わっており、そこにも広報されることになる。異文化交流のよい機会と思う。以上の概要説明により、一般向けアウトリーチの件については議論余地ないとして合意された。専門向けについても概ね了承された。JAMSTEC 側でたたき台を作って、次回さらに検討することとなった。

- 事務局が今年度予算執行状況（参考資料 1）の中間報告をする予定であったが、時間が押しているので後日とする。

- 次回執行部会開催日程  
10/25 以降で検討する。

以上